



⑥ 中高 国語科問題の解答について (注意)

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。(マークシート右上の記入方法を参照) 消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「国語」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのを、それをマークすること。
7. 解答の記入
  - ア. 小問の解答番号は1から46までの通し番号になっており、例えば、25番を  のように表示してある。
  - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
  - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
  - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

(マークシート記入例)

科目名	国語
-----	----

フリガナ	コウバ 90ウ
名前	神戸 太郎

登録番号	解答									
	1	2	3	4	0	●	○	○	○	○
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

数字で記入……

【1】 次の問いに答えよ。

(1) 「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）における「第2章 道徳教育の目標」に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。（\*は、中学校・特別支援学校中学部）

- ① 学校における道徳教育は、社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。
- ② 道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的、発展的な指導を行うことが重要である。
- ③ 学校における道徳教育は、児童（\*生徒）の発達段階を踏まえて行われなければならない。
- ④ 道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。
- ⑤ 各教科は、各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。

(2) 「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）における評価に関する記述のうち、適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。（\*は、中学校・特別支援学校 中学部）

- ① 道徳性の評価の基盤には、教師と児童（\*生徒）との人格的な触れ合いによる共感的な理解が存在することが重要である。その上で、児童（\*生徒）の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童（\*生徒）が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指すことが求められる。
- ② 道徳科で養う道徳性は、児童（\*生徒）が将来いかに人間としてよりよく生きるか、いかに諸問題に適切に対応するかといった個人の問題に関わるものである。このことから、小学校（\*中学校）の段階でどれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することがふさわしい。
- ③ 道徳性は、極めて多様な児童（\*生徒）の人格全体に関わるものであることから、評価に当たっては、個人内の成長の過程を重視すべきではない。
- ④ 道徳性の諸様相である道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のそれぞれについて分節し、学習状況を分析的に捉える観点別評価を通じて見取ろうとすることは、児童（\*生徒）の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価として妥当である。
- ⑤ 道徳科の評価は、選抜に当たり客観性・公平性が求められる入学者選抜とはなじまないものであり、このため、道徳科の評価は調査書には記載してもよいが、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにする必要がある。

(3) 「小学校(中学校)学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(平成29年7月 文部科学省)「第3章 道徳科の内容」では、道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目を、四つの視点から分類整理している。次の四つの視点A～Dと内容項目ア、イの適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

四つの視点

- A 主として自分自身に関する事
- B 主として人との関わりに関する事
- C 主として集団や社会との関わりに関する事
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

内容項目

- ア 友情、信頼
- イ よりよく生きる喜び

- ① アーA      イーB
- ② アーB      イーA
- ③ アーB      イーD
- ④ アーC      イーA
- ⑤ アーC      イーD

【2】 次の文章 A、B を読んで、後の問いに答えよ。(設問の都合で原文の一部を改題した。)

A

著作権保護の観点により掲載いたしません。

著作権保護の観点により掲載いたしません。

B

著作権保護の観点により掲載いたしません。

著作権保護の観点により掲載いたしません。



著作権保護の観点により掲載いたしません。

著作権保護の観点により掲載いたしません。

(国語をめぐる冒険)「第四章 言葉で伝える合」山中洋美 著 岩波ジュニア新書より)

カタカナで書かれた傍線部 a、b、c の漢字と同じ漢字を含むものを各群の①～⑤からそれぞれ選び、番号で答えよ。

a カテイ

- ① 先生のカテイ訪問がある。
- ② ある状況をカテイする。
- ③ 義務教育のカテイを終える。
- ④ 結果よりカテイが大切だ。
- ⑤ 台形のカテイ部分の数値。

b カンシヨウ

- ① 現実をカンシヨウする。
- ② 貯蓄をカンシヨウする。
- ③ 他人にカンシヨウする。
- ④ 万葉集をカンシヨウする。
- ⑤ 不和をカンシヨウする。

c キカン

- ① キカン産業を育成する。
- ② キカンの書物。
- ③ 半年のキカンで完成する。
- ④ 故国にキカンする。
- ⑤ キカン指導を行う。

a	4	b	5	c	6
---	---	---	---	---	---

二 文中の空欄 

I
---

、

Ⅲ
---

 に入る語句として最も適切なものを①～⑤からそれぞれ選び、番号で答えよ。

- ① しかし    ② たとえば    ③ さて    ④ または    ⑤ さらに

I	7	II	8	III	9
---	---	----	---	-----	---

三 文中の空欄【※1】、【※2】に入る慣用的な表現の組合せとして、最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① I 武者震いして    2 胸に落ちる  
 ② I 身がすくんで    2 胸に落ちる  
 ③ I 目が泳いで    2 胸に落ちる  
 ④ I 身がすくんで    2 胸がすく  
 ⑤ I 武者震いして    2 胸がすく

10

四 傍線部 A「言葉が、暴力をつくり出す」とあるが、どのようなことをいうのか。最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 言葉がもっている暴力的な性質を利用して、都合がよいうように人間をコントロールし、友達をいじめたり戦争などで社会を破壊したりするような暴力をつくり出すこと。  
 ② 言葉には人の心や行動をコントロールする働きがあつて、正確に相互理解をすることで社会が心をつにして他者を攻撃するような戦争などの暴力をつくり出すこと。  
 ③ 言葉がもつ人の心を惑わす働きを利用して、危険な行動を誘発するよう仕向けあたかも理解を深めているような錯覚をつくり出し戦争などの暴力をつくり出すこと。  
 ④ 正確に思いを表現できるという言葉の働きを利用して、誤解を解消し互いに理解し合う関係をつくることで共通の敵に立ち向かうような攻撃的ないじめや戦争などの暴力をつくり出すこと。  
 ⑤ 言葉がつくり出すバーチャルな世界を利用して、相互理解を遮断し人間同士の不信感を煽るようにすることでいじめや戦争のような暴力をつくり出すこと。

11

五 傍線部B「文字は読み手本位のコミュニケーションツールであって、対話ではありません」とは、どのような状況をいうのか。これを説明したものと最も適切なるものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 文字は言葉の送り手と受け手が同じ場に存在していないことで、言葉に込められた送り手の真意やねらいを省力した抽象的な意味としての確に伝わることになる。
- ② 文字は言葉の送り手と受け手が同じ場に存在していないことで、受け手が誤解したり勝手に理解をしたりして様々な解釈が生まれ会話が豊かになる。
- ③ 文字は言葉の送り手と受け手が同じ場に存在していないことで、受け手と送り手がその表情や仕草などから感情や裏の意味などを含めた相互理解ができなくなる。
- ④ 文字は言葉の送り手と受け手が同じ場に存在していないことで、読み手の自由な解釈が生まれ送り手にとって好都合な内容が直接的に伝えられることになる。
- ⑤ 文字は言葉の送り手と受け手が同じ場に存在していないことで、受け手が送り手への配慮をしなくなり相手が何を考えているかなど考えなくなる。

12

六 傍線部C「一度『スマホ・ラマダン』をやってみるといい」とあるが、読者への誘いの意図、ねらいの説明として最も適切なるものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① スマホ・ラマダンをすることで、スマホがいかに人間関係を築くうえで有効なのか、その効率的な活用法をどのようにしたらよいか考えてほしい。
- ② スマホ・ラマダンをすることで、言葉の働きを見つめ直し、スマホの有用性としてスマホがどのような「欲」を満たすために使われているかを考えてほしい。
- ③ スマホ・ラマダンをすることで、言葉によるコミュニケーションの有効性と言葉以外の表情や場の雰囲気などによってコミュニケーションが不完全になることに気付いてほしい。
- ④ スマホ・ラマダンをすることで、スマホの便利さを見極め、より一層オンラインに頼る生活を充実させるにはどのようにしたらよいかを考えてほしい。
- ⑤ スマホ・ラマダンをすることで、断食によって食の大切さを実感するようにスマホの有用性を知りコミュニケーションにどのように生かしていくかを考えてほしい。

13

七 傍線部D「言葉は『壁』として自分と人を隔てます」とあるが、その理由を説明した文として最も本文の内容に合っているものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 自分も相手も成長することで、環境の変化や交流範囲が広がり、判断基準や価値観は以前のままではなく、変化しているから。
- ② スマホの普及により、会ったことのない知り合いが増えたことで、それまであたりまえのようにしていた意思疎通が難しくなったから。
- ③ 環境の変化や交友関係の広がりにより、今まであたりまえのように使用していた言葉の意味合いが少しずつ変化したから。
- ④ 自分の言葉や行動によって、相手を傷つけ、それを回避しようとする対応の仕方を変えることで、結果として成長しているから。
- ⑤ 文化や言語が異なる人との偶然の出会いに対応できるように、常に自身の扱う言葉を適度に改良しながら成長しているから。

14

八 傍線部E「自分自身で『わかりやすい』と思って選んだ言葉が、相手に届かない。」とあるが、「届かない」と筆者が考える理由として最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 現代社会では「わかりやすさ」が多様化・複雑化しているから。
- ② 自分の偏った経験にそった言い回しだから。
- ③ 伝えようという熱意が高いから。
- ④ 日頃から面識がある関係かどうかにもよるから。
- ⑤ 理路整然とした説明ではないから。

15

九 **B**の文中の「**図**」から分かることを説明したものと適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 「身振り・手振り」を交えて話し、「具体例」を示して書くことが、「わかりやすく」表現する工夫だと考えている人の割合が最も多い。
- ② 「話し言葉」を書くときの工夫として使用している人は少なくない。
- ③ 書くときには、「**図**」「**絵**」「**イラスト**」などを使う人が多く、さらに「**色**」「**きれいな**」も加えると、視覚に訴える工夫が必要だと感じている人が最も多くなる。
- ④ 書くときも、話すときも、相手が「しやすい」ように工夫している人が多い。
- ⑤ 話すときについては、「**繰り返えし**・**省略**」や「**主語**・**述語**」など対照的な言葉が並んでいる。

16

十 **A**の波線部「言葉の負の面にもあらためて目を向ける必要がある」と、**B**の波線部「言葉の『わかりにくさ』『難しさ』と付き合う」の内容を正しく組合せたものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 言語というものは、読み手によって誤解や勝手な解釈が生まれるという危うさがある。また、わかり方は十人十色であり、すぐに理解できることもあれば、時間を経たり生活経験と結びついたりすることでわかることもある。
- ② 言語というものは、抽象的に物事を捉えさせる働きがある。そのため、細かな思いや感覚を表現することができないという負の面を持つ。この欠点を克服するには丁寧に細部にわたって注意深く表現することが必要になる。
- ③ 言語というものは、共通のものの見方や考え方をもちこたす働きがある。そのため、同じ地域に住む人々が共感し合ったり、協力したりすることが可能になる。人間という集団を作る生物にとって、言語がその生活を豊かにする。
- ④ 言語というものは、対話を通してはじめてその役割を果たすことができる。そのため、文字による表現やオンラインでの文字化されたコミュニケーションにおいては、誤解や勝手な解釈を生みやすくなり言語が十分に働かなくなる。
- ⑤ 言語というものは、文字にすることで時間や空間を超えて使うことができる。そのため、共通に使える言語が求められることになり、世界共通語が生まれるきっかけになる。今日、世界共通語として英語が使われる理由になっている。

17

十一 次のような事例は、**A**の「言葉の負の面にもあらためて目を向ける必要がある」と、**B**の波線部「言葉の『わかりにくさ』『難しさ』と付き合う」のどちらにあたるか。その組合せとして最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

事例1 先生の「馬鹿だなあ」という言葉に対して、傷ついた生徒もいれば、笑顔で返した生徒もいた。しかし不適切な言葉として、先生の言葉は注意されることになった。

事例2 最近習ったことわざの意味を知らなかったが、辞書で調べて会話の中で使ってみる。

事例3 年上の方に同感する意味で「そうなんですネ」と答えたら、機械的に会話を終わらせる相槌と捉えられ「まじめに聞け」と叱られた。

事例4 刺激的な言葉に反応して、その意図やねらいを考えないで、不気に思ったり恐怖を感じたり攻撃的になったりする。

- |   |       |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|-------|
| ① | 事例1…A | 事例2…B | 事例3…A | 事例4…B |
| ② | 事例1…D | 事例2…A | 事例3…B | 事例4…A |
| ③ | 事例1…A | 事例2…A | 事例3…B | 事例4…B |
| ④ | 事例1…B | 事例2…A | 事例3…A | 事例4…B |
| ⑤ | 事例1…A | 事例2…B | 事例3…B | 事例4…A |

【3】 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

高士川といふは、高士の山より落ちたる水なり。その国の人の出でて語るやう、「二年に<sup>A</sup>る、ものにまかりたりしに、いと暑かりしかば、この水のつらに休みつ見れば、川上の方より真なる物流れ来て、物につきてとどまりたるを見れば、反故なり。とり上げて見れば、黄なる紙に、丹して濃くうるはしく書かれたり。あやしくて見れば、来年なるべき国どもを、除日のこと、みな書きて、この国来年あくべきにも、守なして、また添へて二人をなしたり。あやし、あさましと思ひて、とり上げて、ほして、をさめたりしを、かへる年の司召に、この文に書かれたりし、ひとつ違はず、この国の守とありしままなるを、三月のうちにくくなりて、またなりかはりたるも、このかたはらに書きつけられたりし人なり。かかることなむありし。来年の司召などは、今年この山に、そこはくの神々あつまりて、ないたまふなりけりと見たまへし。めづらかなることさふる」と語る。

(元禄日記より)

〔注〕反故：物を書いて不要になった紙のこと。

一 傍線部 A 「ものにまかりたりしに」の解釈として最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 季節が移りゆく時だったので
- ② よそに出かけました折に
- ③ 急いで進んでいたので
- ④ 物事が落ち着いた時分に
- ⑤ 道に迷っていたところ

19

二 傍線部ア、イ、ウの解釈として最も適切なものを①～⑤からそれぞれ選び、番号で答えよ。

- ア ① 気の毒だ      ② おもしろい      ③ あされた      ④ なるほど      ⑤ むずかしい
- イ ① 翌年      ② 変わりゆく年      ③ 交替の年      ④ 帰京する年      ⑤ 現在の年
- ウ ① 選ばれた      ② 高貴な      ③ 全国の      ④ 多くの      ⑤ 代表となる

ア	20	イ	21	ウ	22
---	----	---	----	---	----

三 傍線部 B 「べき」のことでの意味として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 可能      ② 当然      ③ 婉曲      ④ 推量      ⑤ 適當

23



四 傍線部C「二人」とは誰のことか。最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 現在の国守と隣国の国守
- ② 来年の守と桶欠の守
- ③ 神とその国の人
- ④ 現在の国守の次官二人
- ⑤ 神々の中の代表二人

24

五 傍線部D「この国の守とありしままなるを」の解釈として最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① この国の守と書いてあった通りでしたが、
- ② この国の守がよく国を治めていたのに、
- ③ この国の守として引き続き務めを果たしていましたが、
- ④ この国の守とは普通りの付き合いをしていたところ、
- ⑤ この国の守だけはそのまま任官するはずだったのを、

25

六 傍線部E「見たまへし」の主語を①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 書きつけられたりし人
- ② 作者
- ③ そとばくの神々
- ④ 国の守
- ⑤ その国の人

26

七 傍線部F「めづらかなる」の「なる」の文法的に正しい説明を①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 四段活用動詞「なる」の連体形
- ② 断定の助動詞「なり」の連体形
- ③ 形容動詞「めづらかなり」の活用語尾
- ④ 下二段活用動詞「なる」の終止形
- ⑤ 伝聞推定の助動詞「なり」の連体形

27

八 「富士」に関わる和歌「田子の浦にうち山でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ」は、作者が「富士」を見て詠んだ長歌に添えられた、次の反歌がもととなっており、後に『新古今和歌集』にもおさめられている。その作者として最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

「田子の浦ゆうち出でてみれば真白にそ富士の高嶺に雪は降りける」

- ① 藤原安家    ② 西行法師    ③ 紀貫之    ④ 在原業平    ⑤ 山部赤人

【4】 次の漢文を読んで、後の設問に答えよ。(設問の都合で送り仮名を省いたところがある。)

貞観十三年、太宗謂侍臣曰、朕聞太平、後必有大乱、大乱後必有大平。承大乱之後、即是太平之運也。能安天下者、惟在賢才。公等既不能知賢、朕又不可遍識。日復一日、無得人之理。今欲令人自举。於事如何。魏徵曰、知人者智、自知者明。知人既以爲難。自知誠亦不易。且愚暗之人、皆矜能伐善。恐長澆競之風。不可令人自举。

(貞観政要より)

\* 澆競……人情が薄く、人を退けてわれがちに競争すること。

一 傍線部 a、b、c の漢字の読みとして、適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- a ① よく                      ② たいして                      ③ のう                      ④ あたはず                      ⑤ たへるは
- b ① いづれの                      ② やすんずる                      ③ いずくんぞ                      ④ なんぞ                      ⑤ たれか
- c ① いちど                      ② もどること                      ③ かきなり                      ④ ふくすること                      ⑤ まだ

a	29	b	30	c	31
---	----	---	----	---	----

二 傍線部 A を「今、人をして自ら挙げしめんと欲す」と読めるよう、送り点を施したものと適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 今欲令人自举
- ② 今欲令人自举
- ③ 今欲令人自举
- ④ 今欲令人自举
- ⑤ 今欲令人自举

三 傍線部B「事」とは具体的に何を指しているのか。最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 大乱の後には必ず太平の世が来ること。
- ② 天下を安泰にできる者は、賢者だけであること。
- ③ 皇帝の臣下には賢者を知る者がいないこと。
- ④ 優れた人を得る方法が見つからないこと。
- ⑤ 人々に自分自身を推薦させようと思うこと。

33

四 傍線部Cをすべてひらがなで書き下したものと適切なるものを①～⑤から選び、番号で答えよ。  
(傍線部の送り点・送り仮名は省いている。)

- ① おのずからしるまことのまたやすからずを
- ② みすからしるまことにまたやすからず
- ③ おのずからまことをまたしることはやすからず
- ④ みすからまことをしるはまたやすからず
- ⑤ おのずからまことにまたやすからずをしる

34

五 傍線部Dは誰のどのような様子をたとえているのか。その説明として適切なるものを①～④から選び、番号で答えよ。

- ① 愚かな人が自分で自分の才能や善行を自慢する様子。
- ② 太宗の臣下が自分の出世のために都合のよい者を推荐する様子。
- ③ 一般の国民が互いを疑ってそれぞれに告げ口をする様子。
- ④ 出世をもくろむ人がありもしない手柄を吹聴する様子。
- ⑤ 太宗が臣下の心中を疑い密告を奨励する様子。

35

六 本文の内容について述べたものとして適切なるものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 有能な人物を得ようと思うなら、時間をかけて人から推荐してもらうのがよい。
- ② 有能な人物や本当の賢者は、天下の騒乱がおさまったのちに出てくるものである。
- ③ 有能な人材を見抜くのは智の力であるし、自分自身を知るのは賢明である。
- ④ 自分自身を知ることはたやすいが、他者の優れた素質を見抜くことは難しい。
- ⑤ 自分で自分を評価することは難しいものはなく、主観に満ちたものになる。

36

【5】後の設問に答えよ。

一 次は、異なる立場の人との話し合いについて説明したものである。文章中の空欄（ A ）～（ C ）に最もよくあてはまる語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 複数の情報や（ A ）の高い情報を（ B ）にして、意見を述べる。
- ② 相手がどのような（ B ）を基に意見を述べているのかに注意して聞く。
- ③ 互いの考えの（ C ）、話し合いの論点を踏まえて発言する。

- ① A 客観性 B 目標 C 共通点や相違点
- ② A 信憑性 B 証拠 C 関連性や重要性
- ③ A 客観性 B 根拠 C 共通点や相違点
- ④ A 公平性 B 目標 C 特徴や差異点
- ⑤ A 信憑性 B 根拠 C 特徴や相違点

37

二 次は、中学生四名（司会者を含む）によるグループでの話し合いの様子である。これを読んで後の問いに答えよ。

著作権保護の観点により掲載いたしません。

著作権保護の観点により掲載いたしません。

著作権保護の観点により掲載いたしません。

(J) 話し合い中の空欄 ( A ) や ( C ) にあてはまる語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- |   |        |        |         |
|---|--------|--------|---------|
| ① | A 確かに  | B そして  | C ところで  |
| ② | A ところで | B でも   | C したがって |
| ③ | A ときに  | B あるいは | C それとも  |
| ④ | A 確かに  | B でも   | C では    |
| ⑤ | A きっと  | B また   | C では    |

(2) 発言内容のよい点を述べた文として最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 司会は初めに「安全に自転車を使用するためにどうすればよいか」について話し合うことをしたかったが、免許制のことが話題の中心になってしまった。そこで、免許のデメリットを出し合うことでもどのテーマにもとせると考え、デメリットを出し合うことで話し合いを進めた。
- ② つよしさんは、担任から話を聞き免許制を賛成と発言したが、他の人の意見をよく聞きデメリットの意見を受け入れて、実現するには自分たちの力だけでは難しい面もあると考え、学校で何をするか考えるよう話し合いの方向性を変える発言をしている。
- ③ しのぶさんは、「免許を持つても守らない人も出てくるように思います」や「自転車安全利用五則」を「知っていても守らない人も多い」などのように自分で思っていることを話し、これをもとに学校でのルールやマナーを徹底する教室を開くことを主張している。
- ④ なおさんは初めに免許制について自分の考えがまともでないことを話している。が、免許制以外にもできることがあるように思うと意見を述べて他の人に意見を聞いた。自分の意見を話すより、他の人の意見に耳を傾けることを大切にしている。
- ⑤ 三人は、自分の意見を率直に発言している。また、互いの考えを尊重しながら他の人の意見にも耳を傾けている。が、司会の進め方に従ってはいるが、自分の考えを一番大切に話し合いに参加している。



(3) この話し合いの流れを述べた文として最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 最初に自転車の免許制について各自の意見が話され、質問を出し合ったがまとまらなかった。そこで、メリット、デメリットについて話し合い中で、初めに賛成と意見を言っていた人から、課題も多く社会で考えていくべきことで、学校でできることを考えようという提案があり、警察による講習会とポスターの作成が出され全員が納得した。
- ② 最初に自転車の免許制について各自の意見が話された。違う意見ではあったが、三人とも安全意識を高めていくという点は共通していた。そこで、免許制のメリットとデメリットをあけてさらに考えていくことにした。考えを出し合った後、賛成の立場の人から課題も多いので、まず学校でできることを考えようという提案があり、警察による講習会とポスター作成が出され全員が納得した。
- ③ 最初に司会から「自転車の免許制について」話し合いたいとの説明があった。それにしたがって各自の意見を話したが、三人の意見は違う意見であった。そこで、免許制にした時のデメリットをあけて、必要かどうか考えようという提案があり、デメリットを出し合うことにした。その結果、免許制は難しいので、まず学校でできることを考えようということになり、警察による講習会とポスター作成が提案され全員が納得した。
- ④ 最初に「自転車の免許制が必要ではないか」という意見が出された。それに対して、他の二人からは反対意見と考えがまとまらないという意見が出たので、実際に実現可能かどうかについて話し合おうということになった。そこで考えを出し合った結果、実現は難しいという結論になり、学校でできることを決め、警察による講習会とポスター作成が提案され全員が納得した。
- ⑤ 最初に自転車を免許制にしたかどうかという意見が話された。そこで、各自が意見を出し合い質疑応答を行った。なかなかまとまらないので、さらに深めるために、免許制のメリット、デメリットをあげることになった。この話をしていき、賛成の立場の人から課題も多いので、まず学校でできることを考えようという提案があり、警察による講習会とポスター作成が出され全員が納得した。

【6】後の設問に答えよ。

一 中学校の書写の指導について、後の設問に答えよ。

- (1) 次は「中学校学習指導要領解説 国語編」(平成二十九年七月 文部科学省)における「内容の取扱いについての配慮事項」に関する記述の一部である。文章中の空欄( A )、( B )、( C )にあてはまる言葉の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ウ 書写の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。

(ウ) 文字を( A )整えて( B )書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や( C )に役立てる態度を育てるよう配慮すること。

- ① A 美しく B 速く C 社会  
② A 正しく B 丁寧に C 生活  
③ A 的確に B 素早く C 社会  
④ A 正しく B 速く C 生活  
⑤ A 美しく B 丁寧に C 生活

41

- (2) 中学校で行うべき硬筆と毛筆の指導について適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。  
② 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。  
③ 書写の指導に相当する授業時数については、第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度、第3学年では年間10単位時間程度とする。  
④ 書写の指導を取り上げて計画する場合には、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導と関連させた指導計画になるよう配慮することが重要である。  
⑤ 各学年に示した書写の授業時数に応じて、毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して、適切に設定することが求められる。

42

(3) 次の書写に関する事項で、第1学年の事項として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。
- ② 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
- ③ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。
- ④ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。
- ⑤ 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。

43

二 学習指導要領について、後の設問に答えよ。

(1) 次は、「中学校学習指導要領解説 国語編」(平成二十九年七月 文部科学省)における「第3学年の内容」に関する記述の一部である。空欄( A )、( B )、( C )にあてはまる言葉の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を( A )。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。

イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、( B )語感を豊かにすること。

ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。

エ ( C )などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。

- ① A 書けること      B 語感を磨き      C 話し言葉
- ② A 読むこと      B 感性を磨き      C 敬語
- ③ A 読むこと      B 表現力を高め      C 敬語
- ④ A 読むこと      B 語感を磨き      C 敬語
- ⑤ A 書けること      B 感性を磨き      C 話し言葉

44

- (2) 次は、「中学校学習指導要領解説 国語編」(平成二十九年七月 文部科学省)における「学年の目標 第2学年」に関する記述の一部である。空欄( A )、( B )、( C )にあてはまる言葉の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

論理的に考える力や共感したり( A )したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で( B )を高め、自分の思いや考えを広げたり( C )することができるようにする。

- ① A 理解 B 考え合う力 C 強めたり  
 ② A 理解 B 伝え合う力 C 深めたり  
 ③ A 想像 B 話し合う力 C 強めたり  
 ④ A 想像 B 話し合う力 C 進めたり  
 ⑤ A 想像 B 伝え合う力 C 深めたり

45

- (3) 次は「高等学校学習指導要領(平成三十年告示 文部科学省)」における「情報の扱いに関する事項」に関する記述の一部である。( A )、( B )、( C )にあてはまる適切な言葉の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア ( A )と論拠など情報と情報との関係について理解すること。  
 イ 個別の情報と( B )された情報との関係について理解すること。  
 ウ 推論の仕方を理解し使うこと。  
 エ 情報の妥当性や( C )の吟味の仕方について理解を深め使うこと。  
 オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。

- ① A 意見 B 普遍化 C 関係性  
 ② A 主張 B 一般化 C 信頼性  
 ③ A 内容 B 抽象化 C 的確性  
 ④ A 主張 B 一般化 C 関係性  
 ⑤ A 意見 B 抽象化 C 信頼性

46